



決算説明会

平成24年3月期（第30期）

株式会社 免疫生物研究所

JASDAQグロース 証券コード：4570

「抗体」を通じて、世界で難病に苦しむ人々が、
1日も早く、病気を克服し、明るく豊かな暮らしを営めるよう
社会に貢献いたします。



代表取締役社長 清藤 勉

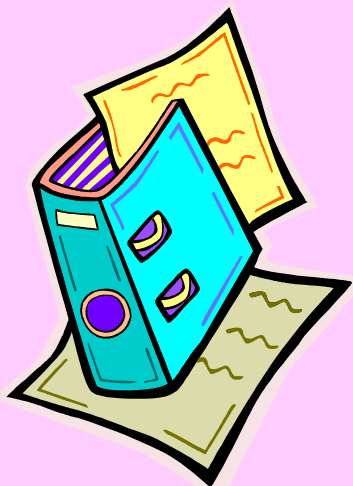
平成24年 5月 28日（月）



決算概要 経営方針

平成24年3月期 (第30期)

1. 決算内容について





平成24年3月期(第30期)決算実績

単位:千円	平成22年 3月期 (第28期)	平成23年 3月期 (第29期)	平成24年 3月期 (第30期)	主な要因 (単位:百万円)
売上高	1,059,411	1,059,574	915,370	・実験動物減(－244) ・試薬、体外診他増(+100)
営業利益	▲ 185,409	▲ 64,096	23,515	・自社品割合増(59→74%) ・製造効率の向上 少人数・高品質の追求 ・実験動物事業の見直し ・販売契約の一時金の収入
経常利益	▲ 189,857	▲ 34,362	54,742	
当期 純利益	▲ 230,133	▲ 103,519	42,828	
原価率	53%	46%	37%	31期目標:35%
販管費率	65%	60%	60%	31期目標:50%
研究費率	24%	24%	24%	バイオベンチャーの本質追求 (20%以上の投資)



平成24年3月期総括

【研究用関連事業】

売上高:700,450千円 (対前年比 21.1%減)

営業利益:107,248千円 (対前年比 142.4%増)

- 実験動物の独占販売契約終了において、大幅な減収
- 差別化の出来る自社開発製品が功を奏し、また、受託サービスの売上回復により、大幅な増収
- 結果として、売上高は減少したものの、自社製品の売上高比率が大幅に向上し、営業利益は、大幅に増加

【医薬用関連事業】

売上高:214,920千円 (同 25.4%増)

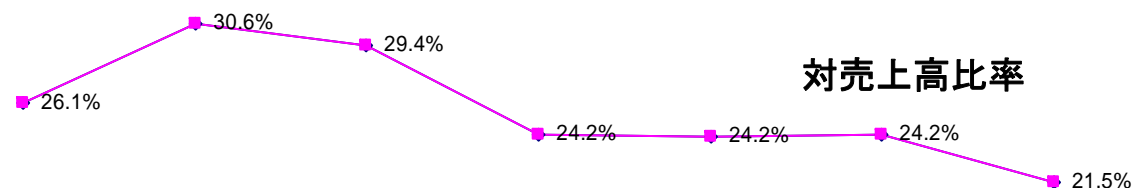
営業損失:83,733千円 (前年は108,346千円の損失)

* 研究開発費 106,897千円を計上

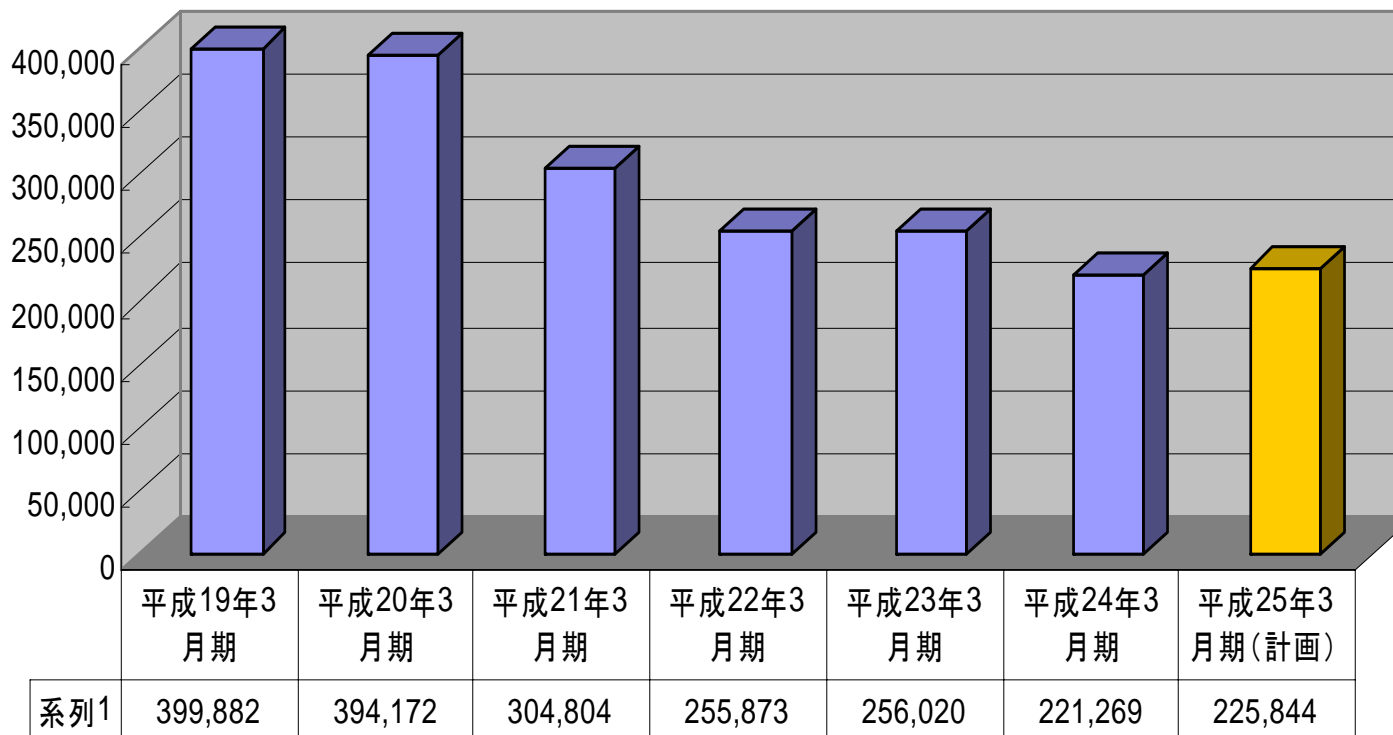
- 体外診断用医薬品のBSEキット及びタゴシッドTDMキットの販売が堅調に推移
- 米国BG Medicine社と抗ガレクチン-3抗体についての独占契約における契約料収入が発生

【総括】

- ☆上場後、初の黒字化達成
- ☆営業キャッシュ・フロー2期連続プラス
- ☆「継続企業の前提に関する重要事象等」の解消
- ☆タカラバイオ株式会社と販売契約の締結(H24.1.30)



研究開発費(千円)



決算期



貸借対照表

(千円)

	平成23年 3月末	平成24年 3月末	増減額		平成23年 3月末	平成24年 3月末	増減額
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	861,137	975,173	114,036	流動負債	124,670	140,878	16,207
現金及び預金	349,785	444,050	94,265	固定負債	87,723	55,491	▲ 32,231
売掛金	149,423	197,852	48,429	長期 借入金	86,000	54,600	▲ 31,400
有価証券	25,000	—	▲ 25,000				
固定資産	1,400,004	1,314,164	▲ 85,839				
有形固定資産	1,074,812	1,012,247	▲ 62,564	負債合計	212,393	196,369	-16,024
無形固定資産	80,922	60,858	▲ 20,063	(純資産の部)			
投資その他の資産	244,269	241,058	▲ 3,211	資本金	1,571,810	1,571,810	—
				資本剰余金	1,416,578	491,753	▲ 924,824
				利益剰余金	▲ 924,824	42,828	967,652
				自己株式	▲ 16	▲ 16	—
				評価・換算差額等	▲ 14,799	▲ 13,406	1,392
				純資産合計	2,048,748	2,092,968	44,220
資産合計	2,261,142	2,289,338	28,196	負債・純資産合計	2,261,142	2,289,338	28,196



キャッシュ・フロー



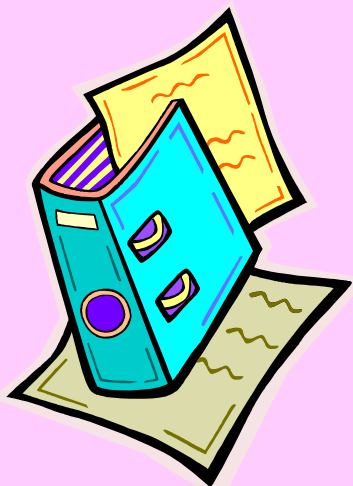
	(千円)			(百万円)
	H22年3月期 (第28期)	H23年3月期 (第29期)	H24年3月期 (第30期)	備考
営業活動による キャッシュ・フロー	▲173,795	131,159	125,672	・利益の計上 +45 ・減価償却費 +101
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 16,940	54,740	▲ 3,836	・証券の償還 +25 ・設備の取得 -27
財務活動による キャッシュ・フロー	▲ 21,114	51,273	▲32,514	・借入金の返済 -31
現金及び現金同等 物の期末残高	83,417	321,684	411,943	2期連続の増加



決算概要・経営方針

平成24年3月期 (第30期)

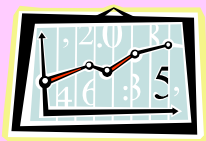
2. 平成25年3月期 (第31期) の業績予想について





業績予想

(千円)

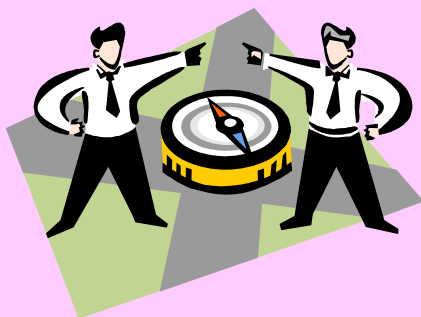


	H24年3月期 第30期(実績)	H25年3月期 第31期(予想)	前期比 増減	主な要因
売上高	915,370	1,050,000	14.7%	・効ラバイオ(株)販売契約締結 国内販売力強化 海外販路拡大 ・研究開発、製造に集中 新製品開発の強化 生産性、安全性の向上 ・新規事業への取り組み TGカイコによる化粧品原料の製品化
営業利益	23,515	150,000	537.9%	・経営基盤の強化 原価率35%へ 販管比率50%へ 少人数、高品質の定着
経常利益	54,742	200,000	265.3%	
当期純利益	42,828	194,000	353.0%	・記念配当の実施



決算概要・経営方針

3. 新中期経営計画





新中期経営計画

(単位:百万円)	平成21年 3月期 実績	平成22年 3月期 実績	平成23年 3月期 実績	平成24年 3月期 実績	平成25年 3月期 計画	平成26年 3月期 計画	平成27年 3月期 計画
売上高	1,036	1,059	1,059	915	1,050	1,330	1,650
(研究用試薬関連)	(563)	(537)	(624)	(683)	(850)	(1,060)	(1,200)
(実験動物関連)	(359)	(369)	(261)	(17)	—	—	—
(医薬関連・他)	(113)	(152)	(173)	(214)	(200)	(270)	(450)
売上原価	576	557	488	339	383	460	600
販管費	842	686	635	552	516	600	650
営業利益	△382	△185	△64	23	150	270	400
				<ul style="list-style-type: none"> ・粗利益率の向上 ・他社との業務提携の推進 ・人件費、コスト低減 	<ul style="list-style-type: none"> ・タカラバイオ(株)との販売提携により国内外の販売網の拡大 ・TGカイコ事業の早期製品化 ・TGカイコ事業による製造費低減 ・抗体医薬ライセンスの導出を目指す(上記数値未算入) ・開発、製造及び販売部門の再編 		
				<ul style="list-style-type: none"> ・黒字化達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・記念配当の実施を目指す ・普通配当の早期実現 		

主な重点施策

① 製品開発力の強化

アルツハイマー病、がん 炎症及び糖や脂質代謝関連疾患などの創薬研究を重要テーマとして開発

② 海外市場への展開

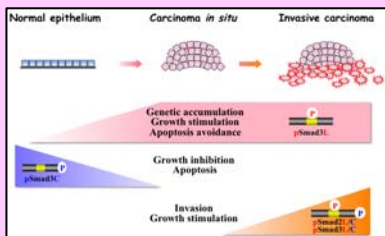
タカラバイオ(株)との販売契約提携

③ 遺伝子組換えカイコ成長戦略

遺伝子組換えカイコ事業部を新設し本格的に事業を展開

④ 生産性向上 安全性向上





製品開発力の強化

大学、公的研究機関や製薬企業及び他のバイオベンチャー企業等と積極的に共同研究や提携等を実施

1. アルツハイマー病

- 1) 研究用試薬から診断薬へ
- 2) 海外企業との共同開発 業務提携への展開

2. がん 炎症

診断に直結できる商品開発

➢ 中皮腫の早期診断薬開発に向けた研究型検診

順天堂大学との共同研究→診断薬への展開

➢ 各種がん化の進展度を判定できるマーカー (リン酸化抗体)

某大学と共同研究開発中 - 年度内早期に販売予定

3. 糖や脂質代謝関連疾患

メタボリックシンドロームを中心として、**糖尿病、動脈硬化、高脂質血症、心筋梗塞、脳梗塞、高血圧**等の疾患の治療支援と次世代の診断に向けた中期 長期的なラインアップ商品開発



海外市場への展開

タカラバイオ(株)との販売契約提携





NeoSilk™

ネオシルク™



遺伝子組換えカイコ成長戦略

■化粧品原料（ヒトコラーゲン）の製品化

→**早期**に化粧品業界注目のヒトコラーゲン配合化粧品原料の供給を展開させる。また、新しいヒト由来の原料開発

■自社抗体製品の生産効率を向上

→**早期**に大量生産法を確立させ生産体制を整備

■試薬、診断薬原料への実用化

→**中期的展開**

- マウス腹水による製造からの切替え
- 自社製品原料抗体への転換による製造コスト削減
- 確実な収益源として有望

■治療薬原料(タンパク質)の開発と実用化

→**動物用治療薬原料他社と共同開発中**

→**フィブリノゲン(止血剤)として導出活動中**



TGカイコ組換えフィブリノゲンの状況

ヒトフィブリノゲンを繭に効率的に生産する
技術研究開発に成功（平成23年5月24日）

（導出に向けた研究データの蓄積）

・組換えフィブリノゲンの精製方法を確立
し、詳細な解析によって、**天然型と同様
アミノ酸組成であることを確認**

**止血剤として専門製薬メーカーへの導
出、医薬部外品などへの応用に向けて
活動**



生産性向上・安全性向上

タカラバイオ(株)との販売契約
による人員の再構成

当社は
ISO13485
認証施設です



- 生産の人員強化
- 生産ラインの効率化の推進と再編
- 品質管理、品質保証の推進と強化
 - ISO13485認証継続

治療用医薬品パイプライン

【アルツハイマー病関連抗体】

- アミロイド β タンパク質に対する抗体、コード名「82E1」について、契約を締結している米国Intellect Neurosciences, Inc. が、アルツハイマー型認知症治療薬として開発中
- 他の、新しい中和機能を有するアミロイド β タンパク質に対する抗体を大学および専門研究機関と共同開発中

【関節炎・自己免疫疾患関連抗体】

- 当該タンパク質及び関連因子に対する抗体を開発中





コード名：
「82E1」

アルツハイマー
病の原因とされ
るアミロイド β
分子のN末端部
分を特異的に認
識する抗体

アミロイド β 特異抗体:「82E1」

1. 治療薬：

契約先の米国Intellect Neurosciences, Inc.において、
CONJUMAB-Aと名付けられたヒト化抗体が開発済
(参照: <http://www.intellectns.com/>)

- CONJUMAB-A分子(IN-N01-OX2)は非活性型の安定したIgG4ヒト化抗体
- CONJUMAB-Aは、癌治療でよく見られる医薬結合抗体として開発され、認知症治療への新しいアプローチを目指している
- リードテストと最適化が2012年に終了予定

2. 体外診断用医薬品：

海外企業への導出を交渉中。

3. 研究用試薬：

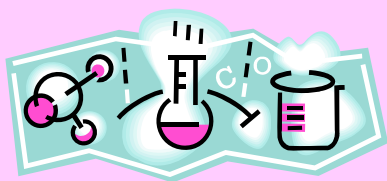
本抗体を原料に用いたキット製品のラインアップ増強を目的に開発中



臨床検査受託事業

- 自社技術として保有する信頼できる検査技術力の強みを生かす
- 自社研究用試薬製品の受託測定を行い、臨床的有用性を見出す

- 製薬企業の薬理作用分析受託
- 病院(臨床医)の臨床研究支援
- 大学との共同研究のデータ取り
- その他自社製品の測定受託





注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。